關槎益子　漢詩人、狂詩文作家、易者。嘉永七年十一月五日豊後國日出生れ、明治四十年二月二十七日歿（一八五一―一九〇七）。本名謙之、字伯亨。別號亨堂、亨堂閑士、南華堂華隠道人、散錄魔王、梅癡居士、槎益居士、益子、益痴子、石巖子、茶益師、石硯子、旭巖、關旭巖、關梅癡、關謙生等。祖父蕉川は帆足萬里に次ぐ藩の碩儒、父星巖は早く洋學に志すも憂慮二年病歿。明治初年大阪に出て開成學校に學び、上京して尺振八の塾に入るも學資續かず歸郷。八年再度上京し、何禮之の周旋で内務省の等外出仕。十年辭して報知社に入り、栗本鋤雲の知遇を得た。豫て新聞雑誌への投書から成島柳北、石井南橋等に認められ、十三年創刊『鳳鳴新誌』の局長に抜擢せられた。翌年丸山作樂の『明治日報』に南橋と共に入社。また服部撫松の『東京新繁昌記』に倣うて、『銀街小誌初編』（明治十五年二月二十八日金華閣）を著はし好評を得るも、二編發行に至らなかった。

十七年司法卿山田顯義の薦力で司法省に出仕し、二十四、五年まで在職。二十六年日報社に入り、（福地）櫻癡居士に對して梅癡居士と稱し、紙上に活躍。また狂詩を唱導して、柳北、南橋歿後の狂詩壇に、市川玩球（中島勝義）、眞木癡叢と共に名を馳せた。二十一年伊藤博文に抜擢せられ帝國制度調査局主事。三十六年辭して芝公園の金地院内で南華堂華隠道人と稱して卜筮を營み、『開運秘訣』全二冊（明治三十七年十月二十日刊）を著はした。